

ありまふじ里山だより

Vol.3

『ありまふじ里山だより』では、棚田里山エリアの自然の様子や里山保全に向けた取り組みについてご紹介します。Vol.3は棚田の様子をお届けします。



藤の咲く頃

かやぶき民家の隣に広がる棚田。その棚田を見下ろすように、新緑のあいだからヤマフジの花が咲いています。

昔から、藤が咲くと田植えの季節と言われますが、この田んぼでも春の野草に見守られながら、田植えに向けて準備が進められています。

上段ではもち米、中段では赤米や黒米といった古代米、下段では蓮（レンコン）が育てられます。



里山は発見の連続

里山を散策していると、たくさんの発見があります。

新芽からアブラムシが樹液を吸っています。アリはアブラムシのお尻から出る甘い蜜をもらう代わりに、敵から守ってあげているのです。ちいさな生き物同士の共生関係がそこにはありました。

続いては葉っぱを広げたササ。でも、茎のあたりをよく見ると、落ち葉が1枚突き刺さっています。どうやって通したのでしょうか!?

最後はペンキが塗られたような木片。これは緑青腐菌という菌が作り出す天然の色。山を散策していると、時々見つけることができますよ!

